



- バス JR富山駅前(南口3番のり場 16系統 富山大学附属病院循環)←約30分→杉谷(医薬系)キャンパス／富山空港←約20分→JR富山駅
- タクシー JR富山駅←約20分→杉谷(医薬系)キャンパス／富山きととき空港←約20分→杉谷(医薬系)キャンパス
- 車 北陸自動車道「富山西I.C.」←約5分→杉谷(医薬系)キャンパス



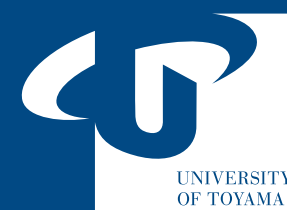
国立大学法人

富山大学 薬学部

〒930-0194 富山市杉谷2630

問い合わせ先 医薬系学務課入試担当 TEL. 076-434-7138

<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/index-j.html>



富山大学 薬学部

Faculty of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama

2016年度 学部案内



「くすりの富山」で薬学を学ぶ
「薬都」への招待

富山大学薬学部では
高度な化学、生物学、物理学、
そしてヒューマニズムを学び
「くすりのスペシャリスト」を育てます

「くすり」と「いのち」の架け橋

「くすりのスペシャリスト」として
かけがえのない
「いのち」を守るために



「病に苦しむ人に新薬を届けたい」
その情熱を胸に、
創薬研究者は日々研究に励んでいます。



「病の苦しみを和らげてあげたい」
その思いを胸に、
薬剤師は薬を管理・調剤し、
お渡ししています。

くすりを
知る

薬を単に化学物質として
理解するのではなく
「いのち」との関わりの中で、
薬の本質を学びます。

薬を飲む人、使う人の気持ちを考え、
さまざまな知識や情報をもとに
的確にニーズをとらえ、
最良の医薬品創成について学びます。

くすりを
創る

生命現象の謎に迫り
病の根源を探究する

薬に関して医師に助言し、
医師とともに処方を考え、
責任を持って患者さんに
適切に説明できるよう
正しい知識を学びます。

くすりを
使う

「くすりの富山」の 薬学教育

富山にしかない「3つの融合」が、創造性に富み、時代の先端を歩む
富山流「くすりのスペシャリスト」を育みます。

医と薬の 融合

富山医科薬科大学時代から続く
我が国随一の医学部と薬学部の
強い連携で、生きた薬学を学びます。

「富山の売薬さん」以来
300年以上の「くすり」の
文化が根付く街
富山で最先端の薬学を学びます。

富山流 くすりの スペシャリスト

伝統と 最先端の 融合

東洋と 西洋の 知の融合

我が国唯一の
和漢医薬学総合研究所との連携で
東西医薬学の融合による
新しい医療学体系を学びます。

学部長からのメッセージ

富山大学薬学部長 細谷 健一

薬学は、化学・物理学・生物学を基礎に生命科学や自然科学を基盤とした多彩な領域からなる学問分野です。薬学の目的は、薬の理解を通じて、人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全に貢献することです。富山大学薬学部では、幅広い知識と確かな技能を備えた質の高い薬剤師の養成とともに、専門的な薬学の知識と研究技術を身につけた創薬研究者・技術者の養成を行っています。「くすりの富山」の地で、「くすりのスペシャリスト」を目指してがんばってみませんか。



ミニ講座 富山の売薬さん

1690年、江戸城で腹痛を起こした大名に、富山藩第二代藩主・前田正甫公が「反魂丹」を与えたところ、たちまち治ったことから、これを知った諸国の藩主から「反魂丹」を売り広めるよう頼まれました。そこで正甫公が薬業を奨励し、売薬さんが全国に「とやまの薬」を売り歩くようになりました。「先用後利（せんようこうり／先に薬を渡しておき、つけた分だけ後で集金する）」と呼ばれる独自の商法で販売されていたため、身近な常備薬として定着しました。

「富山の売薬さん」は、後継者育成のために教育にも力を入れ、共立富山薬学校（富山大学薬学部の前身）の創設にも尽力しました。売薬を中心に様々な産業が発達し、現在までに受け継がれています。「富山の売薬さん」がいなかったら、今の富山は全く別のものになっていたと考えられます。



JR 富山駅前「売薬さん像」



幕末の富山の絵師松浦守美によって描かれた版画で、富山の売薬さんが全国におみやげとして持ち歩いたものです。この絵に描かれているのは、富山を流れる旧神通川に架かる「舟をつないでつくった橋（舟橋）」です。なお、元の版画は富山市売薬資料館に所蔵されています。

「3つの融合」の足跡

1690年頃

富山藩第2代藩主・前田正甫公が薬業を奨励
反魂丹を中心とした配置薬「越中富山の薬売り」を
全国に展開

1893年（明治26年）

本学薬学部のルーツ、共立富山薬学校創立

1910年（明治43年）

富山県立薬学専門学校に改組

1920年（大正9年）

全国初の官立薬学専門学校（富山薬専）に改組

1949年（昭和24年）

旧富山大学薬学部が発足

1963年（昭和38年）

薬学部附属和漢薬研究施設を新設

1975年（昭和50年）

富山医科薬科大学が開学

2005年（平成17年）

三大学統合により富山大学薬学部として再編

2006年（平成18年）

薬学部を薬学科（6年制）と創薬科学科（4年制）に改組
大学院を医学系研究科と統合し、医学薬学教育部に改組

2014年（平成26年）

富山大学薬学部創立120周年記念事業

富山流「くすりを創る」スペシャリストを育む ～創薬科学科～

創薬科学科（4年制） 「くすりを創る」スペシャリストの育成

●創薬研究の基礎能力の育成

薬学の基礎となる自然科学（化学、生物学、物理学）と、薬理学や薬剤学などの創薬に関する専門的な知識および研究技術を身につけた創薬研究者を養成します。特に教養教育や本学薬学部独自のカリキュラムを通じて「くすり」を単なる物質として捉えるのではなく、大切な「いのち」を守るために創るという薬学の基本精神を学び、ヒューマニズムを醸成します。

●創薬研究の実践能力の育成

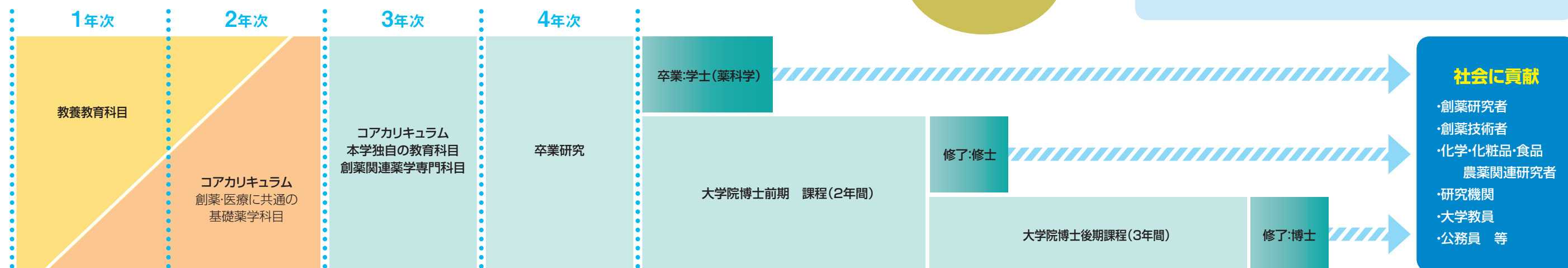
3年次までに医薬品の基礎と専門科目を集中して学んだ後、4年次には興味ある研究分野を選んで研究室に配属され（和漢医薬学総合研究所にも配属可能）、少人数教育のもと、最先端の実験・研究の指導を受けます。創薬科学科を卒業すると、学士（薬科学）の称号が授与されます。

大学院博士前期課程（2年間）、その後さらに博士後期課程（3年間）を主体的に過ごすことで、先端的知識や技能・論理的思考力に秀でた実践的な研究者へと飛躍します。近年では企業等の研究職への就職希望の高まりから、大学院進学割合が増加しています。

●創薬科学科の特徴

本学独自のカリキュラムにより創薬に必要な最新の専門知識と技術を学びます。また、創薬研究に必要な英語能力の向上を目指し、TOEIC 学習のサポートをはじめとする英語教育が、全学年を通して行われます。

医学部との連携により医療の現状を理解し、創薬研究に不可欠な医療人の視点を身につけることが可能です。また、和漢医薬学総合研究所との連携により、和漢薬の基礎から最先端までを学ぶことができます。



こんな人は
創薬科学科へ

薬学関連の研究分野で国際的に活躍したい

新薬の研究に携わることで人類と社会に貢献したい

疾患に関連する現象や物質に対して興味・関心が強い

生体メカニズムの解明やそのための新しい方法論の開拓に挑戦したい

金子 司
創薬科学科 4年



私は、創薬研究に携わる仕事に就きたいと思い、富山大学の創薬科学科に進学しました。1～3年次は、基本的には薬学科も創薬科学科も一緒に授業を受けています。一方で、創薬科学科に特化した独自の授業もあります。1年次には早期体験実習として富山県内の製薬企業の工場見学をしました。3年次には富山のくすりの歴史を学ぶ授業であったり、富山県薬事研究所で錠剤の製造工程を見学したりと、より専門的な授業が増えてきてとても勉強になります。3年の冬には研究室配属があり、私は様々な分野の授業を受けている中で有機化学に興味を持ったため、現在の有機化学系の研究室に所属し研究を行っています。研究室での実験は、自らでよく考え主体性をもって取り組むことが大切です。全てが順調に進んでいくことは決していないので大変なことも多いですが、先生方にご指導を頂いたり、先輩や同級生から良い刺激を受けたりしながら、有意義な研究室生活を送ることができています。この研究室生活で、将来の創薬研究に携わっていけるような能力を養っていきたいです。

Q

大学院へ進学した方が良いですか？

A：近年、製薬企業の研究職などでは即戦力を必要とするようになり、大学院で専門的な研鑽を積んだ学生を採用するようになりました。研究職のみならず、薬学関連分野で重要な役割を担った仕事で活躍したい方には、大学院（博士前期さらに後期課程）への進学をお勧めしています。

創薬科学科を卒業しても薬剤師になれますか？

A：原則として、薬学科の卒業生の上に薬剤師国家試験の受験資格が与えられます。ただし平成29年度入学までの特例措置として、創薬科学科卒業生でも厚生労働大臣により個別に認可されれば、受験できます。しかしそれには、博士前期課程修了後、博士後期課程に進学し、所定の期間（3年間）に加えてさらに1年間以上在学し、不足した科目の受講や共用試験受験、実務実習等を行って、所定の単位を取得する必要があります。また、実務実習等のカリキュラムへの組入れ人数にも限りがあり、数名に限定されますので薬剤師を目指す方には、薬学科への入学をお勧めしています。

富山流「くすりを使う」スペシャリストを育む ～薬学科～

薬学科（6年制）

「くすりを使う」スペシャリストの育成

●将来の医療を担う人材の育成

教養教育を含む幅広い領域をカバーしたカリキュラムを通じて、コミュニケーション能力の向上や医療人として必要な豊かな人間性の醸成、高い倫理観の啓発に務めています。また、今後の医療の国際化にも目を向け、アメリカの南カリフォルニア大学との学術交流等を通じて、英語を話せる国際感覚豊かな薬剤師の養成にも取り組んでいます。

●研究能力の育成

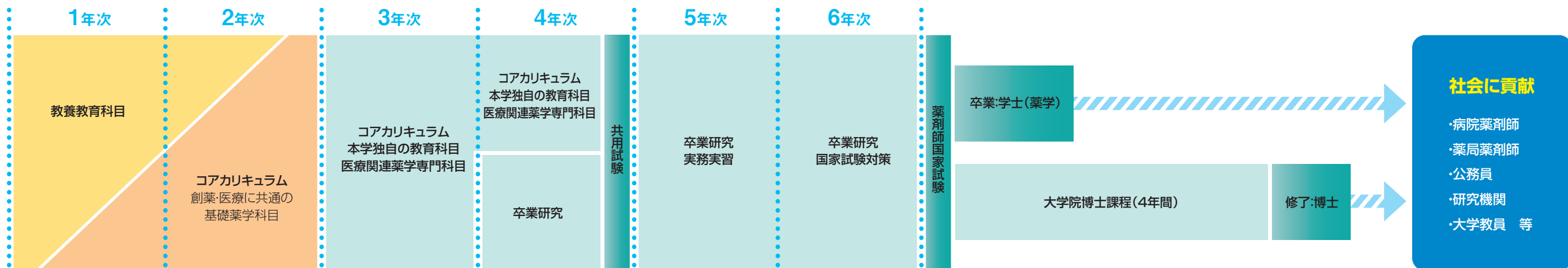
4年次から卒業研究を開始し、将来研究能力を臨床現場で活用できる薬剤師の養成、創薬研究を薬剤師の立場から推進・指導できる人材の輩出を目指しています。

4年次終了時に共用試験を受験、合格後、5年次からの実務実習に参加します。薬学科を卒業すると学士（薬学）の称号が授与され、薬剤師国家試験の受験資格が得られます。卒業後、さらに大学院に進学し、最先端の臨床薬学や統合医療を学ぶこともできます。

●薬学科の特徴

医学部との連携により、医学部教員、医学研究者、医療スタッフによる講義や医療現場の見学を通して、臨床現場で必要な能力の基本を学びます。また、医・薬・看護合同での講義や実習で、チーム医療の大切さを実感できます。

和漢医薬学総合研究所との連携も行っており、和漢薬に関する講義・実習により、生薬、漢方薬の基礎と実践、東西医薬の統合の重要性について学びます。



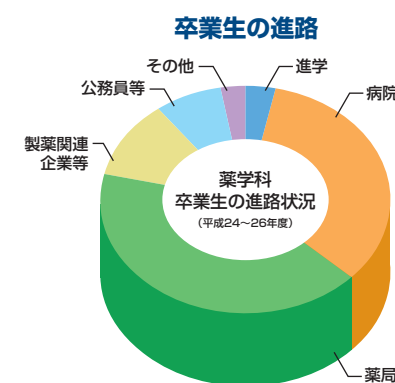
こんな人は
薬学科へ

薬剤師としての高度な学識と職能を得たい

医薬品の研究や臨床開発に携わることで人類と社会に貢献したい

東西医薬学の融合による統合医療を実践したい

医療や保健衛生の分野で社会に貢献したい



Q

共用試験とはどんな試験ですか？

A：実務実習では、薬剤師免許を持たない学生が調剤や服薬指導を行います。そのため、患者さんの安全や権利などを確保する必要があります。共用試験は薬学生が実務実習を行うために必要かつ十分な基礎的知識や技能・態度を備えているかどうかを評価し保証するもので、全国の大学が共通の試験を行っています。この試験に合格しなければ、実務実習に参加できません。CBT（コンピュータを用いた学科試験）とOSCE（技能や患者に対する態度を客観的に評価する実地試験）の2種類の試験があります。

薬学科を卒業して創薬研究者になれますか？

A：薬剤師であるからこそ、理解できることもあるでしょう。くすりを使う薬剤師の立場・視点で、くすりを創ることは、とても重要で有益なことです。6年制薬学部を卒業した薬剤師である創薬研究者の誕生が待ち望まれています。

坂口 知美
薬学科 5年



薬学科では、3年次の途中から研究室に配属され、自分の研究テーマに沿って6年生まで研究を行います。研究室では専門的な知識を身につけることができるので、企業での研究開発職など、将来の職業の選択肢が広がります。また創薬研究を経験することで、「くすりを創るスペシャリスト」の視点から薬と向き合うことができる薬剤師を目指すことができます。4年次の途中からは、共用試験（OSCE・CBT）に向けた事前学習（約2ヶ月間）が始まります。本学には、実際の調剤室さながらの錠剤・水剤・散剤・軟膏剤などの調剤台や無菌調剤設備が整っており、本格的な調剤の練習ができます。また、患者対応や服薬指導の授業では外部から模擬患者さんをお招きし、緊張感をもって臨むことができます。5年次には薬局や病院において、実際に指導薬剤師のもとで業務を行います。このような現場での実習では、「くすりを使うスペシャリスト」として、薬剤師には様々な知識が必要であることを実感できます。

富山流「くすりのスペシャリスト」 育成カリキュラム

全国の薬学部において共通して履修する「コアカリキュラム」はもちろん、くすりを「知る」、「創る」、「使う」視点に立った本学独自の教育科目、さらには「医と薬の融合」、「東洋と西洋の知の融合」、「伝統と最先端の融合」の三大潮流をくむ本学ならではの講義を展開しています。

教養教育科目

人間文化科学（社会学、語学等）
生命健康科学（生物学、生命科学等）
自然情報科学（物理学、化学、数学等）

社会活動や専門科目の理解に必要な基礎知識に加え、社会における医療の役割、重要性を学びます。教養教育科目のうち、数学、物理学、化学の3科目は入学時の習熟度に応じてクラス編成を行い、基礎学力の向上を図っています。

コアカリキュラム

全国共通の薬学専門教育科目

・物理系薬学 ・化学系薬学 ・生物系薬学 ・医薬品をつくる
・薬と疾病 ・薬学と社会 ・健康と環境
の7項目に分類されています。

学生実習

富山流の学生実習プログラム

学生実習では、自分たちで薬の化学合成を行い、さらに自らの手で作った薬をつかって薬理試験等の実習も行います。創薬の行程を自らたどることで創薬の面白さを体験します。



Q

高等学校で生物を履修して
いませんが授業について
いけますか？

A：心配はいりません。高等学校で履修して
いなくても、十分についていけるよう配慮
されています。一方で、生物に限らず、大学で
学んでいくためには自発的な学習姿勢が必要
です。わからないまま放置せず、積極的に質問
するなどの努力も必要でしょう。

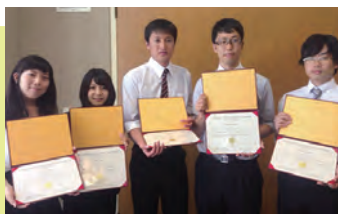
コアカリキュラムって？

A：薬剤師や薬学研究者などをを目指す学生に学んでほしい
内容を整理し、厳選した全国共通の薬学専門教育のガイドライン
です。

上記の7分野は互いに密接に関連し合っています。本学では、
コアカリキュラムの内容を次に挙げる科目で講義しています。
物理化学、分析化学、生物物理化学、構造生物学、生薬学、
有機化学、合成化学、基礎生化学、基礎微生物・免疫学、
衛生科学、物理薬理学、医療薬理学、薬物動態学、薬理学 など

井上 頌子
薬学科 6年

「アメリカにおける薬剤師の活躍ぶりを見たい！」薬学生向けの雑誌から「日本の薬剤師は、アメリカの薬剤師に10年遅れている」という記事を読み、目標とする薬剤師像を見つけるため、5年生の夏季休暇を利用して南カリフォルニア大学（USC）での約2週間の臨床薬学研修に参加しました。研修では、アメリカの医療や疾患に関する講義を受け、実際の症例をあげてディスカッションしたり、病院や薬局の見学も行いました。研修を通して感じたのは、アメリカでは、薬剤師が人々の暮らしにとっても密接に関与しているということです。体調に関してまず相談するのは、病院ではなく身近な薬局などの薬剤師であり、簡単な検査やインフルエンザの予防接種も薬剤師によって行われます。人々の日々の健康管理を担うというのがアメリカの薬局薬剤師としての当然の役割であり、患者さんとの信頼関係の深さに驚きと憧れを抱きました。アメリカでの薬剤師の目覚ましい活躍を認識すると同時に、かけがえのない友人や経験を得ることができ、とても充実した研修でした。



左から2人目が井上さん

岩田 美奈
薬学科 6年

薬学科5年次では病院や薬局で実際の薬剤師の業務について学ぶ実務実習があります。薬剤師の仕事は外来患者さんに向けた薬の調剤のイメージが強いかもしれませんが、それだけではありません。病院実習では院内製剤、抗がん剤の調製、医薬品情報の収集など仕事は多岐にわたります。また患者さんの病気を治すために、積極的に自分の知識と経験から薬剤師としてのアドバイスをするなど、医療従事者の一員として患者さんに関わることが出来ます。私も実習先の病院で、指導薬剤師さんとともに回診やカンファレンスに参加させていただき、薬のスペシャリストとしてアドバイスする様子を見学させていただきました。現場の雰囲気に触れたり、他の医療従事者の視点での意見を聞いたりなど、とても貴重な体験ができました。薬局実習では患者さんへの対応を中心に行いました。実際に患者さんに関わる薬剤師さんの受け答えをみてとても勉強になり、将来自分が働くときに「どのような薬剤師になりたいか」を考えるよいきっかけとなりました。



キャリアサポート

・専門英語 ・ニュージーランド語学研修 ・南カリフォルニア大学臨床薬学研修
・就職や将来に役立つTOEICサポート（創薬科学科）
・独自の対策プログラムによる薬剤師国家試験サポート（薬学科）
*薬剤師国家試験（平成27年3月）**新卒者合格率94.0%（全国平均72.7%）**

くすりを創る（創薬科学科）

早期体験実習

富山県内の製薬企業を訪問し、工場見学をします。
実際の製造工程を学ぶことができます。

創薬化学、製薬企業と創薬

創薬に必要な最新の専門知識と技術を学びます。

先端分子薬学

分子・細胞レベルでの生体と医薬品の関連を
最新のライフサイエンスをベースに学びます。

くすりを使う（薬学科）

早期体験実習

富山市内の調剤薬局で、調剤業務を見学します。

薬物治療学、薬物代謝学など

臨床薬学系には必修の科目で、医薬品や疾患についてより深く学びます。

実務実習

本学附属病院を含む富山県内の病院や地域薬局で
5.5か月の臨床薬学実習を行い、薬剤師の業務を
学びます。

くすりを知る

総合薬学演習

10人程度のグループで興味ある医薬品を選び、その発見の
歴史、合成法、薬理作用等を調べ、教員・学生の前で発表します。
医薬品ひとつが出来上がるまでの道のりを学びます。

医と薬の融合

医療学入門

医学部（医学科、看護学科）の学生との混成グループによる講義と体験実習を通じて医療人としての倫理観とコミュニケーション能力の体得を目指します。

免疫学、病原微生物学

医学部の教員による講義が受講できます。

伝統と最先端の融合

総合科目「富山大学学」

富山大学の歴史と使命について学びます。

富山のくすり学

富山のくすりの歴史と現状について理解し
製剤の実例について学びます。

薬学経済

全国各地で活躍する本学の先輩方の講義です。
社会に出てから現場で学んだことなど有用な
情報がいっぱいです。

東洋と西洋の知の融合

和漢医薬学入門

天然薬物や漢方医学の基礎を学びます。

東洋医学概論

東洋医学と西洋医学の違いや共通点を再発見します。

教養教育科目

コアカリキュラム



立山合宿

夢広がる！ キャンパスライフ



ソフトボール大会



バドミントン大会

櫻村 彩香 薬学科 6年

私は学部4年生の春に、海外キャリア研修に参加しました。富山大学と金沢大学の学生計20名で中国・大連市に4日間滞在し、海外で事業展開する北陸の現地企業の訪問や大連理工大学の学生との交流をしました。当時のニュース等から、出発前は中国訪問を少し不安に感じていましたが、今回出会った中国の方は、ドアを後続の人のために支え続けてくれるなどの細かな気遣いがあり優しく、そんな不安もすぐになくなりました。また大連理工大学の学生は勉強熱心で、授業が終わった後もアルバイトをするのではなく勉強をしていました。彼らは、「将来やりがいのある仕事に就いて幸せな暮らしをするために、今の勉強は必要なんだ。」

と目を輝かせながら話していました。今回の研修は、普段なかなか接する機会のない他学部や他大学の学生、さらには大連の方々と交流でき、自分にとって良い刺激となりました。また、今回の海外キャリア研修を通して、「現地に行って実際に自分で体験しなければ分からないことがたくさんある」と強く心に感じました。学生生活の中でこのような貴重な経験ができたことを、今後の大きな糧にしたいと思っています。



薬学科1年生のある水曜日

薬学科 1年 宇佐美 友香

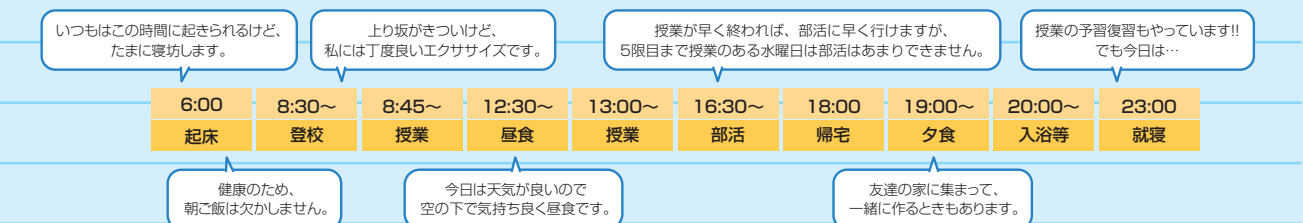
私は、毎朝6時に起きて朝食をとります。学生寮「新樹寮」に住んでいるので、学校までは自転車で30分ほどです。坂がきつくて大変ですが、良い運動になります。授業は90分単位で行われ、慣れるまではつらかったです。お昼休みには学生食堂を利用したり、自分で作ったお弁当を食べることが多いです。空き時間は友達と課題をしたり、アイスを食べたりして過ごします。講義が終わったら、部活に行きます。私は大学で新しいことを始めたいと思って、武田流中村派合気道部に入りました。週3回の練習を積み重ねて、少しずつ上達する喜びを感じています。この他に2つのサークルに所属していますし、授業の課題も多いのでとても忙しいですが、その分、時間の使い方が上手くなりました。このように充実した毎日を送っています。



時間割（薬学科1年次前期の例）

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1 8:45-10:15	哲学的人間学	基礎化学B	基礎化学B	現代社会と法	物理学ⅠA
2 10:30-12:00	基礎独語Ⅰ		生命科学Ⅰ	情報処理学a	解析学A
3 13:00-14:30	英語Ⅰa		英語Ⅱa	実用独語Ⅰ	
4 14:45-16:15	身体と運動の科学	医療学入門		心の科学	薬学概論
5 16:30-18:00			解析学A		

ただし、金曜日の3・4・5限目は6月15日から化学実験になります。



立山での新入生合宿研修

創薬科学科 1年 大島 知佳子

杉谷（医薬系）キャンパスの新入生は、毎年立山で1泊2日の合宿研修を行います。医学部、薬学部の新入生全員が参加して、立山での野外研修や討論を通して協力し合い親睦を深めます。

今年の研修では、一日目には、まず大学に集まって学部混合でチームを組み、コンセンサスゲームを行いました。話し合いをするなかで交流を深めていくことができました。また午後には、称名滝を見に行きました。絶壁から流れ落ちる水は、迫力満点で圧倒されました。夜には学科別に分かれて、班別に討論を行いました。自分の意見を言うことに慣れていなかったため初めは戸惑いましたが、徐々に慣れてきて自然と発言できるようになりました。

2日目は、立山で雪のオブジェを作る予定でしたが、悪天候のため室堂周辺を散策することになりました。しかし、散策中には、めったに見ることのできない雷鳥を見ることができ、とても幸運でした。

今回の研修を通して、仲間と協力し合うことの大切さを改めて実感しました。今後もこの研修でできた仲間たちと協力し合っ、大学生活を過ごしていけたらいいなと思います。



創薬科学科4年生のある1週間

創薬科学科 4年 丸茂 勇輝

私は病態制御薬理学という研究室に所属し、糖尿病治療薬に関する研究を行っています。平日は朝から夜まで研究に打ち込んでいます。自分の研究分野に関する論文を読み、深く理解できるように知識を蓄えています。1～3年生の学生実習と研究は、似て非なるものだ実感しました。実習は結果が分かっている、その結果を正しく出すことが大切です。それに対し、研究は結果を推測し、それを証明することが大切です。またどういうプランで研究を進めていくのかを自分で考え、主体性を持ち、積極的に取り組むことが重要です。私も先輩たちに早く追いつけるように頑張りたいです。4年生からは、研究が主体の生活となり大変ですが、その分やりがいや達成感は大いだと思います。

週末は、部活で硬式テニスをし、エンジョイしています。研究はもちろんですが、自己管理して、自分の趣味もメリハリつけて楽しむことが充実した生活を送るポイントだと思います。



時間割（創薬科学科4年次前期の例）

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1 8:45-10:15					卒業研究
2 10:30-12:00					知的財産概論
3 13:00-14:30	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	薬学経済
4 14:45-16:15					卒業研究
5 16:30-18:00					

薬学科5年生のある1週間

薬学科 6年 島田 浩和

薬学科5年次生の大きな特徴は、病院および薬局で実務実習を行うことです。実習は病院3ヶ月、薬局3ヶ月の計6ヶ月間行い、実際の臨床の場で薬剤師業務を学びます。薬局実習では、午前中に薬を準備する「調剤業務」を中心に行った後、午後には患者さんに薬を説明する「服薬指導」を行い、薬局業務の一連の流れを体験することが出来ました。



薬局での実習期間中の1週間のスケジュール

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1 8:45-10:15	調剤	調剤	リハビリ病院訪問	調剤	調剤	英語論文紹介
2 10:30-12:00						
3 13:00-14:30	講義（服薬指導の基礎）	講義（在宅医療）	講義（医薬品情報へのアクセス法）	新薬説明会	講義（災害時医療）	
4 14:45-16:15	調剤＋服薬指導	調剤＋服薬指導	調剤＋服薬指導	調剤＋服薬指導	調剤＋服薬指導	卒業研究
5 16:30-18:00						

実務実習（月～金）、卒業研究関連（土）
※調剤では、扱った薬一つ一つについて学び、ただの作業で終わらせないように心がけます。
※実習が終わったら、一日のまとめと日誌の記載を行います。

実習を通して、薬剤師の業務の1つである「服薬指導」の重要性を改めて感じました。医薬品は正しく使用しないと、病気を治すどころか悪化させてしまう危険性をはらんでいます。そのため、服薬指導において、患者さんに薬の正しい使用方法を理解してもらうことは、患者さんの健康を守る上でとても重要だと感じました。さらに、患者さんに薬のことを理解してもらうためには、専門的な事柄を分かりやすく伝える、伝達スキルも必要だと学びました。

また、実務実習の無い土曜日は自分が所属する研究室で研究活動に励みます。私の場合、午前は英語論文紹介のセミナーに参加し、午後は自分の卒業研究を進めました。実習と研究活動の両立は楽ではありませんが、充実した1年間を送ることが出来ました。

よびませ! 研究者魂

くすりを創るにも、くすりを使うにも、疑問に思い、考え、解決する能力は非常に重要です。
富山大学薬学部では、創薬科学科、薬学科を問わず卒業研究に特に力を入れています。

研究者魂 = 探究心 + 観察力 + 論理的思考力

創薬科学科では4年次に1年間、薬学科では4年次から3年間研究室に配属され、卒業研究を通じて薬学研究の最先端に触れることになります。多くの学生が卒業後さらに大学院で研究を続行しています。

いろんな「なぜ?どうして?」。

その答えを追いかけている時の「わくわく」。

分かった時の「やったー」。

幼い頃持っていた小さな研究者魂が薬学研究という舞台でよびさまされることになります。

最先端を歩んでいるが故に、目の前で起こっていることは、どこの教科書にも書いてありません。必然的に試行錯誤の繰り返しが始まります。まったくの無から、一つの新しい知見にたどり着くために常に「なぜ?どうして?」の問題点を気に留め、みずから仮説を立て、得られた実験結果から論理的な考察を行う、という作業を繰り返します。

教員は、学生が主体性を持って、自ら疑問を持ち、考え、答えにたどり着けるよう見守ることで研究者魂を育て、富山流「くすりのスペシャリスト」を養成します。

富山大学杉谷キャンパスの静かで落ち着いた研究環境が、研究者魂の育成をバックアップしてくれます。



研究室紹介

研究室には大きく6つの系があります。実際の研究内容は多岐にわたり、多角的にくすりにアプローチしています。研究室ごとにホームページを開設していますので、詳細は薬学部ホームページをご覧ください。研究室を紹介した動画もありますので併せてご覧ください。

<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/laboratory/index.html>

<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/tv/index.html>

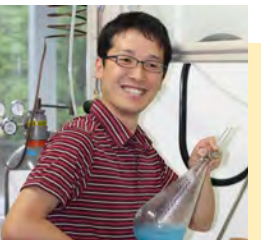
物理系研究室	生体認識化学、生体界面化学、構造生物学、薬物生理学
化学系研究室	分子合成化学、薬品製造学、薬化学、薬用生物資源学、化学
生物系研究室	分子神経生物学、遺伝情報制御学、分子細胞機能学、がん細胞生物学、生物学
薬剤・薬理系研究室	薬剤学、応用薬理学、製剤設計学
医療系研究室	病態制御薬理学、薬物治療学、医薬品安全性学、医療薬学、臨床薬剤学（附属病院薬剤部）
薬用植物園	植物機能科学



こうして卒業研究で見出された新発見は
富山発の「新しい薬学」として、世界に発信されています。

大石 雄基

大学院 博士後期課程 3年



私は創薬科学科の3年次から現在の化学系研究室で研究をしています。優しい先生方のご指導により、いつも楽しく実験し、充実した毎日を過ごしています。杉谷キャンパスは丘の上であり、自然豊かで研究に集中できる良いところです。私はこうした素晴らしい環境に恵まれた中で毎日研究に励み、Molecular Chirality ASIA 2012においてPoster Awardを、平成24年度有機合成化学北陸セミナーにおいてプレゼンテーション賞を、日本薬学会北陸支部第124回例会において学生優秀発表賞をいただくことができました。これもすべて、質の高い教育と、切磋琢磨しあえる仲間のおかげです。研究に興味のある方はもちろん、薬学について深く学びたい方、一緒に富山大学薬学部で学びましょう。

石川 明香里

大学院 博士前期課程 2年



私は本学創薬科学科を卒業し、大学院に進学しました。学部生のときに配属された研究室で、新たな糖尿病治療法の開発を目指した研究を行っています。研究は思うように結果が出ないことや予想外の結果が得られることも多く、配属当初は何度も苦戦しました。しかし、今ではそれも研究の面白さのひとつであると感じます。こうした日々の研究の成果は自ら全国または世界へと発信することができます。私は第58回日本糖尿病学会年次学術集会およびThe 8th International Aldosterone Forum in Japanにて学会発表を経験しました。後者学会では優秀賞を受賞し、自分が携わった研究を高く評価して頂けたことを嬉しく感じました。富山大学には熱心に指導して下さいる先生が多く、恵まれた環境の中でこのような充実した研究生生活を送っています。また、留学生も多く在籍しており、留学生との交流や国際学会への参加を通して海外と繋がることは、皆さんが世界へ羽ばたくチャンスになると思います。

Q

外国に留学して研究してみたいのですが？

A：外国の大学院に進学する人や、博士号を取得後、博士研究員として外国の大学あるいは研究所へ留学する人もいます。博士号取得後がもっとも一般的です。

学会で発表してみたいです。

A：研究成果が得られたら、4年生でも学会でどんどん発表しています。大学院生になると、国際学会に出席して、英語で発表する人もいます。みなさんにチャンスがあります。

Q

学術論文って何ですか？

A：学術論文とは、研究で得られた新しい事実や発見、実験結果をまとめたものです。そのほとんどは、国際的な科学雑誌（ネイチャーやサイエンスなどの名前を聞いたことがあると思います）に投稿されて、世界に向けて発表されます。また、学術論文（文献）を調べれば、世界でどんな研究が行われているかがわかります。学術論文のほとんどは英語で書かれていますので、英語能力は研究者に欠かすことのできないものです。

緑きらめく! ゆとりの キャンパス

富山流「くすりのスペシャリスト」を生み出す秘密は
実はキャンパスそのものにも隠されています。



富山大学附属病院（完成予定図）

現在改装中です。
実務実習の現場となるなど、薬学部との連携が強いです。
院内には、郵便局やATM、カフェもあります。



薬学研究資料館

薬学部の歴史がここにあります。



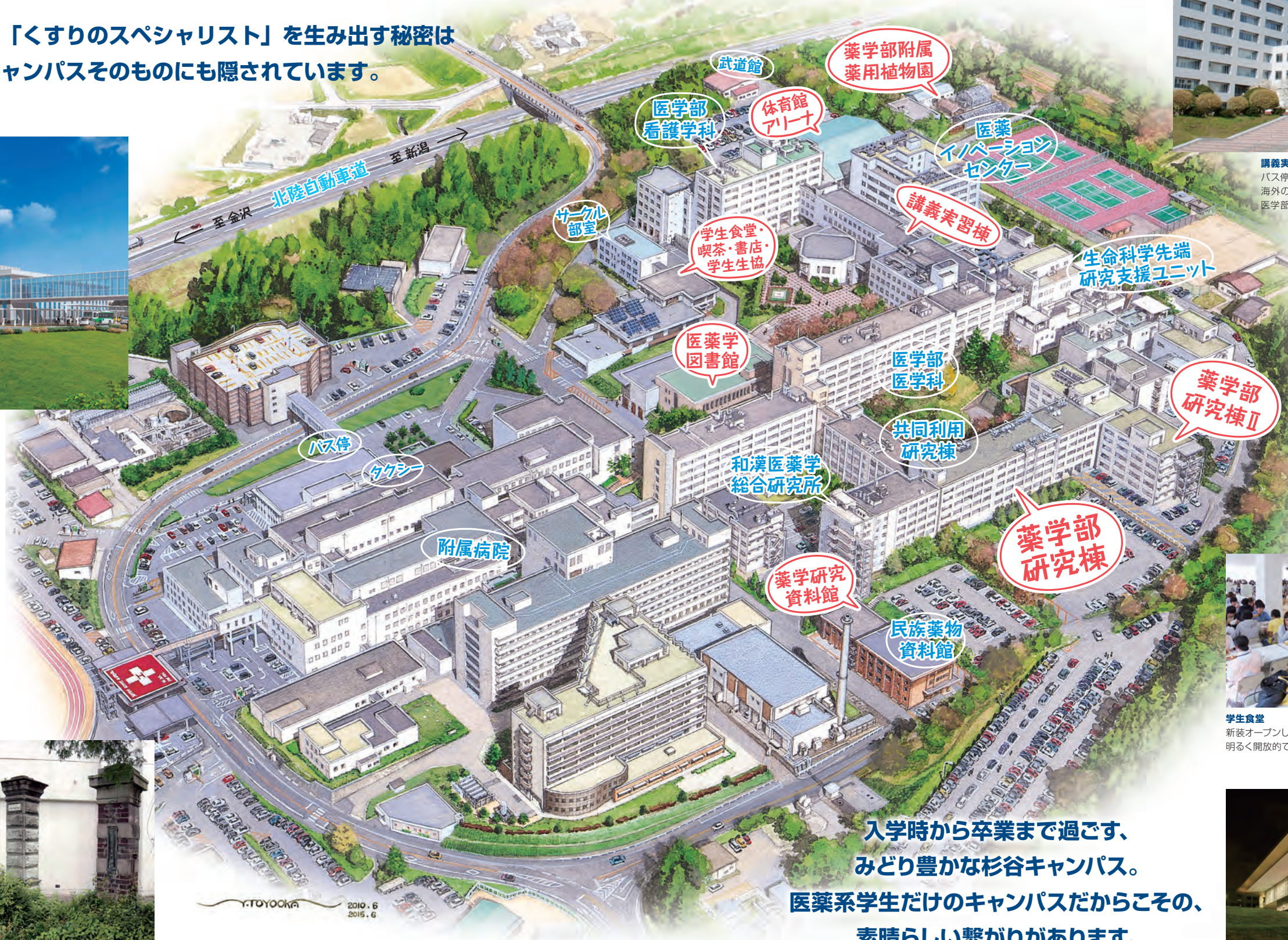
民族薬物資料館

世界の諸民族の伝統薬物や生薬標本などの
研究資料を保存展示。保存資料数は世界一。



富山薬専の門柱

約100年前から本学部を見つめて
います。



入学時から卒業まで過ごす、
みどり豊かな杉谷キャンパス。
医薬系学生だけのキャンパスだからこそ、
素晴らしい繋がりがあります。



講義実習棟

バス停から歩いてきて、階段下から眺める校舎の姿は、
海外の大学キャンパスかと思間違ふような風景です。
医学部との合同講義もあります。



薬学部附属薬用植物園

約2,000種類を所有し、その数は全国トップ
レベルです。研究の合間に緑の中で気分転
換できます。



学生食堂

新装オープンしました。
明るく開放的で、安くておいしいです。



医薬学図書館

一年中、24時間利用可能。研究、勉学を完全サポート。
医薬系の図書や、電子ジャーナルの整備が充実しています。



出会いいっぱい・富山

日本全国から学生が集まっています。
たくさんの仲間との出会いが
今後の人生にもきっと役に立つはず。
大学での出会いが一生ものになります。

魅力あふれる！ とやま生活

TOPIC!★

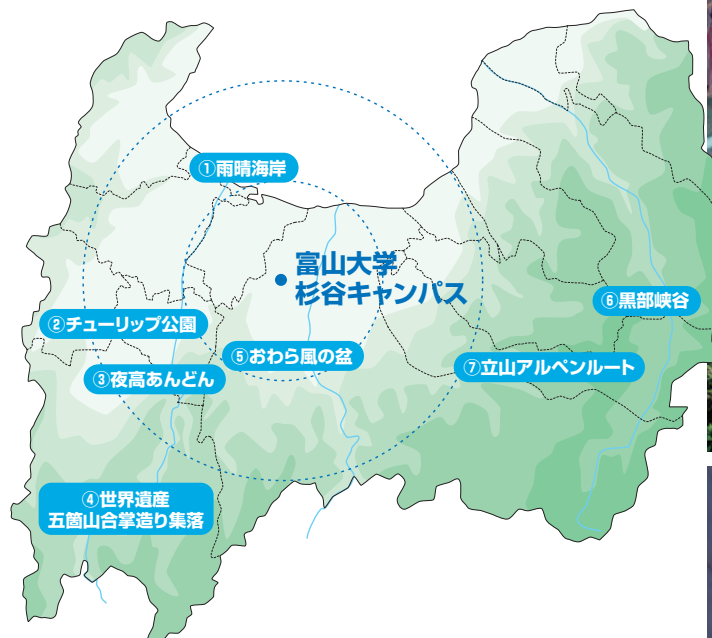


2015年、ついに北陸新幹線が開通
富山―東京間が最短2時間8分で結ばれ、
関東がより近くに。

平成22年～27年度の
出身県別入学者
(在学生)の総数

楽しみいっぱい・富山

富山にはおわら風の盆をはじめ、四季折々の伝統的なお祭りがあります。
夏は近くの海で海水浴、冬はスキー、スノボも楽しめます。
立山連峰は登山にも最適で、全国から沢山の登山客が集まるなど
一年を通して、いろいろなスポーツを体験できます。
また、3,000m級の立山連峰は登山だけでなく、
数々の絶景で楽しませてくれます。
遊び方いっぱいの富山です。



幸せいっぱい・富山

「47都道府県の幸福度に関する研究結果(2011年・法政大学大学院・坂本光司教授)」で全国第二位になるくらい、暮らしやすいところです。夏は暑く、冬は寒く、日本ならではの四季がはっきりしています。自然の厳しさ、自然の豊かさが、ホタルイカ、しろえび、寒ブリ等の海の幸だけでなく、山菜等の山の幸も育てます。美味しい食事が身も心も健康にします。
また、富山では産・学・官が一体となって「くすり」に取り組んでいます。フォーラム富山「創薬」が開催され、「くすり」に関する議論を深める場が設けられたり、富山大学薬学文献研究会に協賛する製薬関連企業から図書館資料の充実のための支援を頂くなど、勉学へのバックアップも強力です。



富山湾の神秘・ホタルイカ



富山湾の宝石・しろえび

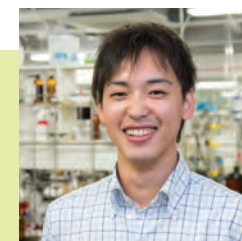
足立 沙耶 薬学科 4年

3年次の終盤に研究室へ配属となり、卒業研究が本格的に始まりました。学生生活が研究室一色になる前に、富山県の魅力をもっともっと知りたいと思い、3年次には県内各地を観光しました。春には砺波市の「となみチューリップフェア」に行きました。このフェアは、国内最大規模の博覧会で、600品種250万本の色鮮やかなチューリップが咲き誇り、残雪の立山連峰とのコラボレーションは絶景そのものでした。さらに、庄川観光祭にも行ってきました。迫力満点の「夜高あんどん」に圧倒されるとともに、県内で一番早い花火大会には心癒されました。富山県には、他にもまだまだ沢山の伝統や自然の魅力があふれています。これからも富山県の魅力にもっともっと触れていきたいです。



野上 暁生 大学院 博士課程 2年

私は6年制の薬学科を卒業し、博士課程の学生として化学系の研究室で研究を行っています。新しい薬を“創る”ことを目標に、日々の実験や学会発表に取り組んでいます。学部時代は、薬理学、薬剤学などの薬学系の科目を学んだり、実務実習を行ったりして薬を“使う”ための知識を学びました。特に、実務実習で実際の医療現場を経験できたことは大きな財産になっています。一方で、将来的には薬を使う薬剤師の視点で創薬に携わりたいと考え、博士課程への進学を選びました。薬剤師免許が取得でき、現場と研究どちらの経験も十分に積むことができるこのコースは、非常に魅力的だと思います。薬を“使う”と“創る”どちらもこなせるオールマイティな人材を目指して、一緒に富山大学薬学部で学びましょう。



奨学金制度はありますか？

A：人物・学業ともに優れ、健康であり、経済的理由により修学困難な者を対象として日本学生支援機構や、地方公共団体、民間育英団体の奨学金制度があります。詳細は富山大学のパンフレットをご覧ください。

アルバイト事情は？

A：富山県は教育熱の高いところですので、塾講師や家庭教師のアルバイトの募集がたくさんあります。特に杉谷キャンパスの学生は人気が高いようです。

下宿生活は？

A：大半の学生が、杉谷キャンパスから徒歩15分圏内の学生用アパートから通学しています。家賃は月4～5万円程度、生活費は部屋代を含めて月8～10万円くらいが平均的です。大学でも学生寮「新樹寮」を運営していますので富山大学のパンフレットを参照してください。

笑顔がやかく！ アフタースクール

クラブ・サークル

勉強や研究の合間に、上手に気分転換をしています。
クラブ・サークル活動はほとんどが杉谷キャンパス内で
医薬両学部の学生のみで行われています。

大学生になって新しいことにチャレンジする人も
多いようです。

文化系

管弦楽団、ギターマンドリンクラブ、軽音楽部、ウィンド
アンサンブル、合唱団はるか、三曲会、国際医療研究会、
ボランティア同好会、小児科訪問サークル青い鳥、緒鞭会、
ピア・エデュケーション研究会、救急医学勉強会 SALT、
写真部、美術部、茶道部、ESS、書道部、かるた部、囲碁・
将棋部、ダンス研究会

体育系

準硬式野球部、女子軟式野球部、卓球部、サッカー部、陸上競技部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、
男子バレーボール部、女子バレーボール部、ハンドボール部、硬式テニス部、ソフトテニス部、バドミントン部、水泳部、
山岳部、ウインドサーフィン部、競技スキー部、ラグビーフットボール部、ダンス部、剣道部、弓道部、養神館合気道部、
武田流中村派合気道部、ITF テコンドー部、フットサルサークル、ゴルフ部、釣り部

坂井 晴香 薬学科 4年

緒鞭会（シャベンカイ）は漢方薬に
ついて勉強し、これからの医療・生活に
結び付けようという医学部・薬学部
の学生主体のサークルです。

先輩が先生となり後輩が知識を吸収
していくという伝承的な形式の勉強会があり、半期ごとに様々なテーマを扱
います。また、各年度の前期には、新入生を対象とした入門講座が開かれ、基本的な
漢方に関する知識を習得することができます。先輩・後輩関係なく、新たな
知識を獲得しようと日々励んでいます。顧問の先生の指導の下で実際に薬を
煎じて飲んだり、丸薬を昔ながらの方法で作ってみたいもします。

富山県と言えば「富山の薬売り」と言われるくらい、薬に関して昔から有名
でした。富山大学に関しても、全国で数少ない「和漢診療科」という診療科・
講座がある大学です。そんな環境の中で、私たちは漢方に触れられる機会が多く、
これを活かさない手は無いと考えます。将来必要とされるであろう漢方の
知識を、みんなで楽しく培うことが出来る、そんなサークルを目指して頑張っ
ています。



藤島 雅 薬学科 6年

私は男子バスケットボール部に所属
しています。部には薬学部と医学部
合わせて約20人の学生が所属していて、
医療系学部の大会を中心に様々な大会に
向けて日々練習しています。昨年度は
「近畿医歯薬バスケットボール大会」で
優勝、「全国薬学生バスケットボール
大会」では準優勝という成績を収める
ことができました。

熱い仲間たちと本気でプレーについて語り合ったり、みんなで
楽しく旅行へ行ったりと、楽しい日々をおくっています。部活動
にも遊びにも、そして勉強にも一生懸命な、そんな仲間たちと
過ごす大学生生活は最高に楽しいです。

また、部活動の運営やいろいろな人との関わりの中で自分の
世界は大きく広がります。
こうして活動している充実した時間が私は大好きです。

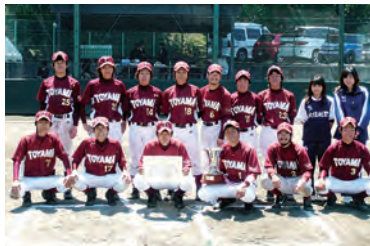


中央が藤島さん

赤坂 千尋 薬学科 4年

私が所属している男子バレーボール部は現在、プレイヤー
20名、マネージャー7名で活動しています。先輩後輩に
関係なく、部活以外でも皆で遊びに行くほどの和気あいあいとし
た明るい部活です。普段はそんな感じですが、ひとたび
部活動の時間となれば真剣に、かつ楽しみながら練習に励んで
います。バレーボール部の一大イベントとして『西医体』や
『関薬』と呼ばれる大会が夏にあるため、夏はそれに向けて
練習にさらに熱が入ります。そして、基本的に大会は遠征と
なるので、皆でともに過ごす時間も増え、より仲間との
絆を深めることが出来ます。

初心者でバレーボールを始める人達も多く、新しいことに
チャレンジすることはとてもいい経験になると思います。
もちろんバレーボールだけに限らず、大学ではぜひ
積極的に色々な新しいことに取り組んでみてください！



富山流 「くすりのスペシャリスト」たちの 未来

進路

就職率は毎年ほぼ100%（進学者を除く）で、全国各地の製薬企業、
病院、薬局、大学、研究所、行政機関など、様々な分野へ進出しています。
平成24～26年度卒業の創薬科学科生は90%が大学院に進学しています。

大学院博士前期課程修了者は62%が製薬関連企業へ就職し、22%が博士後期課程に進学しています。

平成24～26年度卒業の薬学科生は32%が病院薬剤師、43%が薬局薬剤師、13%が企業へ就職しています。
博士課程には3%が進学しています。

薬学部を卒業すると 取得が有利になる資格

薬学部を卒業すると

- ・毒物劇物取扱責任者
- ・甲種危険物取扱者受験資格
- ・食品衛生管理者
- ・食品衛生監視員受験資格

薬学科を卒業するとさらに

- ・薬剤師国家試験受験資格

主な進路

【製薬関連企業】 武田薬品工業、塩野義製薬、エーザイ、アステラス製薬、
小野薬品工業、大正製薬、中外製薬、大塚製薬、日本新薬、興和、
キッセイ薬品、JT、富士フイルム、廣貴堂、富山化学工業、池田模範堂、
日医工、小林製薬、日本ベーリンガーインゲルハイム、テイカ製薬、救急
薬品工業、十全化学、富士化学工業、リードケミカル 等

【公務員】 厚生労働省、各自治体職員

【進学】 富山大学大学院、北海道大学大学院、東北大学大学院、
東京大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、名古屋大学大学院、
浜松医科大学大学院、和歌山県立医科大学大学院、等

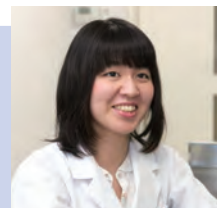
【病院】 富山大学附属病院、東北大学病院、金沢大学附属病院、福井
大学医学部附属病院、千葉大学医学部附属病院、信州大学医学部附属
病院、山梨大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、滋賀医科大学
医学部附属病院、新潟大学医学部総合病院、聖マリアンナ医科大学病院、
群馬大学医学部附属病院、浜松医科大学医学部附属病院、熊本大学
医学部附属病院、富山赤十字病院、高山赤十字病院、長岡赤十字病院、
山口赤十字病院、前橋赤十字病院、大田原赤十字病院、福井赤十字病院、
長野赤十字病院、等

【薬局・薬店】 調剤薬局、ドラッグストア 等

富瀬 彩加 H24卒業・H26修士

私は本学部創薬科学科を卒業後、同
大学院へ進学しました。私が薬学部を志望
した理由は、薬が有効性や副作用を示す
しくみを学び、将来、安全な薬創りに携わりたいと思ったからです。
大学院生時代、私は薬の有効作用と副作用を決定付ける要因となり
うる、薬を運ぶ分子について独自の研究課題に取り組みました。

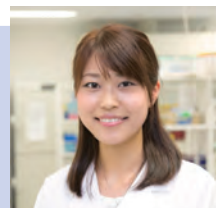
富山大学薬学部では、有機化学、薬理学、和漢医薬学など様々な
分野について学ぶことができ、大学での研究活動や現在の仕事にも
その知識が活かされています。さらに、学部4年生の時に受講した
“製薬企業と創薬”という講義では、現在製薬企業に活躍されている
方の話を聞くことができます。製薬会社には、新薬候補を創造する
研究職、臨床試験に携わる開発職、医薬品適正使用のための情報を
医療従事者に提供するMR職など様々な職種があり、この講義は将来
私がやりたい仕事を考える上で大変貴重なものとなりました。製薬企業の
多種多様な職種の中で、この春から私は、縁あって製薬会社の研究職に
従事しています。本大学で学んだ知識や経験を活かし、安全な薬創りに
これから挑戦していきたいと思っています。



神谷 知江 H26卒業

私は卒業後、病院薬剤師として働いています。
病院では、医師や看護師、栄養士などの多くの
医療従事者の連携により治療が進められており、
薬剤師はそのチーム医療の中で、薬による治療や副作用の管理という重要な
役割を担っています。私が病院薬剤師となることを決意したきっかけは、薬学部の
5年次に行われる実務実習でした。実際の医療現場で行われる実習では、
薬剤の性質に関する知識を深めるだけでなく、教科書や講義では学べない、
患者さん個人に合わせた薬の使い分けを学習でき、チームの中で働く薬剤師の
姿に感銘を受けました。また、患者さんから感謝の言葉と笑顔をいただけた
ときは、大きな喜びと、患者さん一人ひとりと真摯に向き合うことの大切さ
を感じました。現在は、勤務先の病院において、大学で学んだ専門的知識と
経験を活かし、すべての患者さんが少しでも気持ちよく治療を受けていただけ
るよう、努力を続けているところです。

薬学部のある富山大学杉谷キャンパスには隣接して大学附属病院があり、
国内でも最先端の医療を間近で学ぶことができます。さらに病院では、富山
ならではの刻み生薬による和漢薬の処方や診療もっており、講義や調剤を
通して幅広い知識を身に着けることができます。薬に興味がある方、ぜひ富山で
学びませんか？



富山流「くすりのスペシャリスト」へのインタビュー

富山流『くすりのスペシャリスト』である本学薬学部卒業生は、
いずれもそれぞれの職場で、その「研究者魂」をいかに発揮し、
高い評価を受けて活躍しています。

環境と健康の接点を教育・研究する



鍛冶 利幸

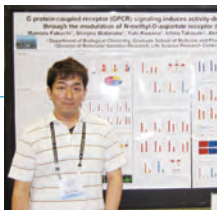
(S58卒業・S60修士・S63博士)
東京理科大学薬学部 教授

私は東京理科大学薬学部で教員として働いています。教育と研究が私の仕事です。薬学をめぐる環境は、大きく変わりました。主に薬と向き合っていた薬剤師は、人と積極的に接することも強く求められるようになりました。薬学研究者も、臨床や病理にリンクした基礎研究を期待されています。

私の研究領域は、疾病予防と健康増進を目的とする衛生薬学です。薬による治療を直接の目的としない、異色な薬学です。私は、人の健康と環境の接点が生体分子と環境化学物質の相互作用にあるという視点から、時代の要請に応えるべく薬剤師養成教育と薬学研究を進めています。

富山大学薬学部の先生方は、研究にも教育にも非常に熱心です。伝統と言っているでしょう。また、杉谷キャンパスでは、素晴らしい環境に、薬学・和漢研・医学・附属病院が併設されています。領域を超えた交流経験は今でも私の最大の財産です。自分の学生時代を折に触れて思い出しながら、研究室スタッフや学生と活発な日々を送っています。

基礎研究を通して生命活動の偉大さを学ぶ



福地 守

(H13卒業・H15修士・H18博士)
富山大学大学院医学薬学研究部(薬学) 助教

私は富山医科薬科大学(現在の富山大学)で学位を取得後、縁あって所属研究室の教員となり、研究と教育を行っています。

私は生命活動に必須のイベントである遺伝子発現(遺伝子の情報が機能的な因子に変換される過程)に着目し、特に脳・神経系の発達や機能に遺伝子発現がどのように関わるのか?主に生化学的・分子生物学的手法を用いて研究を進めています。また、薬剤等を用いて遺伝子発現をコントロールすることで、低下した脳・神経機能を改善することが可能ではないかと考え、創薬を目指したアプローチも行っています。私たちの生命活動を可能にしている細胞内のメカニズムは非常に複雑で緻密です。研究室スタッフの先生方や学生達と日々の研究を通してこの生命活動の偉大さに驚きながら学ぶ毎日です。

この数年で薬学部の環境は大きく変化し、研究室での研究体制も以前と比較して変わりました。しかし、同じ目標に向かって研究室員が一丸となって研究する心は変わりません。

大学で学生と共に新薬開発を目指す



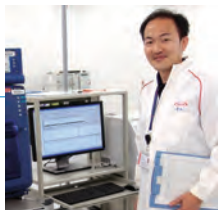
五十里 彰

(H6卒業・H8修士・H11博士)
岐阜薬科大学薬学部 教授

私は富山で生まれ育ち、富山医科薬科大学(現在の富山大学)で学位を取得後、静岡県立大学薬学部の教員になりました。薬学部に入学した頃は、薬剤師の道しか知らず、製薬企業、大学、研究所、行政機関など、多くの活躍の場があることを知って進路に迷うこともありましたが、熱心にご指導いただいた先生方の姿を見て、研究を続けたいと思いと薬学教育に携わりたい思いが強くなり、大学教員としての道を選びました。

現在、私は岐阜薬科大学の生化学研究室で、がんの新しい治療標的の同定と治療薬の開発を目指して研究に取り組んでいます。大学では、すぐには役に立たないような基礎研究から医療現場に密着した臨床研究まで、幅広い研究を実施することが可能です。なかなか期待する結果が得られませんが、思いがけない発見に遭遇することがあります。このように探しているものとは別の価値あるものを見つける能力を“セレンディピティ”と呼びます。セレンディピティを高めるためには、幅広い知識と経験が必要のため、学生とともに日々勉強の毎日です。薬学を志す皆さんがこれからのような職業を選ぶにしても、失敗を恐れず新しいことに挑戦し、多くの経験を積んで欲しいと思います。

製薬企業で研究職として働く

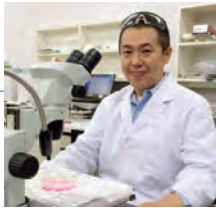


清水 久夫

(H15卒業・H17修士・H20博士)
武田薬品工業株式会社 医薬研究本部

私は製薬企業で研究職として働いています。現在勤務している製薬企業では、画期的新薬を患者さんに届けるという共通の目標のもと、グローバル規模で新薬の研究開発に取り組んでいます。新薬の開発は、ターゲット探索、化学合成、薬効評価、毒性評価、薬物動態評価、製剤設計、そして臨床試験と多くの時間と労力がかかる非常に困難なミッションです。私はその中でも薬物動態を評価する研究に従事しており、現在、主に血中の薬物濃度を分析する仕事に携わっています。研究所では日々新しい候補化合物が見出されますが、候補化合物は低分子化合物から核酸・ペプチドなどの高分子化合物まで多岐に渡ります。さらに薬物本体のみならず代謝物やバイオマーカー等も高感度に分析することが求められます。私はそれら化合物の特性を見極めた分析法を開発することで、新薬の開発に貢献するやりがいを感じています。私は学部・大学院を通して富山大学で学びましたが、社会に出た現在、大学で得た専門知識や経験が自分の科学者としての重要な土台になっていると実感しています。

製薬企業での創薬研究活動



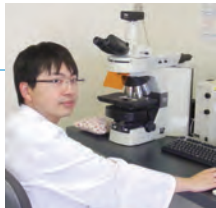
加賀谷 賢太

(H15卒業・H17修士)
田辺三菱製薬株式会社
研究本部

私は、「医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献します」との企業理念のもと、世界に通用する新薬を1日でも早く、1人でも多くの患者さんのもとへ届けるべく、研究開発に取り組んでいます。医薬品の創製は十数年の年月と莫大な研究開発費を要し、新薬は多くのステージを経て有効性と安全性が確認され、審査承認を経て発売されます。私はその中で薬理研究に従事しており、ミッションとしては標的分子探索と化合物最適化です。前者は文献や文献から仮説を設定すると共に医療ニーズ等の情報を付与し狙うべきターゲットの選択を行います。後者は、標的分子の機序に基づき、細胞/組織等を用いるin vitro評価系、病態モデル動物等を用いるin vivo 評価系で、化合物の作用を検証し新薬として磨き上げる仕事です。いずれもオリジナリティやスピード感、粘り強さが求められますが、非常にやりがいがある仕事です。富山大学で学んだ知識と経験は創薬研究における礎であることは間違いありません。

最後に研究開発の醍醐味を2人の名言で。
Imagination is more important than knowledge. -Albert Einstein-
Stay hungry, stay foolish. -Steven Paul "Steve" Jobs-

製薬と富山



山野井 遊

(H17卒業・H19修士)
株式会社池田模範堂 研究所 薬理グループ

私が働く池田模範堂は立山の麓、上市町と言うところにあります。社名をご存知の方は少ないと思いますが、主力商品の虫刺され用かゆみ止めは商品名を聞けばご存知の方も多いと思います。

このかゆみ止めは昔からある薬ですが、今も研究開発を続け製品の改良や新製品の開発に取り組んでいます。このような研究開発には薬学部で学ぶ幅広い知識がとても役に立ちます。また、研究開発に必要な最新の科学技術を得るため富山大学と共同で研究を行うこともあります。

製薬に携わる人間にとって富山と言う「薬」に力を入れる県にすることは大きなメリットだと思っています。

私自身は県外出身で本学入学の際に富山にきましたが、富山の住みやすさからすっかり居着いてしまいました。これから薬について学ぶ方々にとって、「薬都とやま」は良い選択肢となるのではないのでしょうか。

日常業務が社会貢献につながる： 東日本大震災医療救護活動の経験をとおして



活動中。体育館の一角で調剤。

私は平成23年度まで、富山県立中央病院薬剤部で病院薬剤師として多様な業務に従事してきました。病院薬剤師は、調剤や注射セットの業務の他、抗がん剤の調製や持参された薬剤の鑑定等を行っています。また、担当病棟を受け持ち、患者さんに服薬指導を行い、適正な薬剤使用に貢献しています。少しでも患者さんが安全に治療を受けられるよう常に努力しています。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、悲しいことに非常に多くの命が失われました。私は富山県派遣の医療救護班第1班の一員として、3月17日から岩手県の釜石市で医療活動をしてきました。避難所の巡回診療を行うにあたり、私の基本的な活動は、主に調剤や、そのくすりをお渡しする時の服薬指導でした。その際、服薬全体、さらには健康食品などとの総合的な飲み合わせ(相互作用)の確認が重要でした。

審査する行政機関では



栗林 亮佑

(H15卒業・H17修士)
独立行政法人 医薬品医療機器総合機構
ジェネリック医薬品等審査部

私は、現在、後発医薬品の承認審査業務と国際業務に携わっています。
後発医薬品の審査では、製薬企業が提出する品質と生物学的同等性試験の結果が主な審査内容になります。品質の審査では、後発医薬品の作り方(製造方法)の確認から、製造された医薬品が予め設定された管理項目(規格)に適合するかについて審査を行っています。また、生物学的同等性試験の審査では、先発医薬品と後発医薬品をヒトに投与した時の血中薬物濃度を比較することで、後発医薬品が先発医薬品と同等の有効性及び安全性を有するかどうかを審査しています。

国際業務では、後発医薬品の承認審査における規制協力の促進を図るための国際会議(International Generic Drug Regulators Pilot)に参加しています。各国の審査基準、審査方法に関する議論を通して、我が国の後発医薬品の審査をより効率的にするための方策について考えています。この国際会議での活動を通じて、製薬企業の医薬品開発の効率化を図り、国民の健康増進や医療費の削減につなげられればと考えています。

どちらの業務も国民の健康増進につながる仕事であるため、大変やりがいのある仕事であると感じています。

薬局薬剤師として働く



高嶋 あゆみ

(H25卒業)
ゆう薬局グループ 株式会社ユー・ビー・ディー 薬剤師

私は薬局薬剤師として働いています。私が働いている店舗では地域の人の利用が多く、近隣にお住まいの患者さんが様々な診療科の処方箋をもって訪れてくださいます。中にはかかりつけ薬局として利用して下さる方もいて、飲み合わせや副作用について相談に乗り適正な薬の使用を指導しています。

また、店舗に来られる患者さんだけでなく特別養護施設との関わりもあり、主治医の先生や施設の看護師、ヘルパーと連携をとって患者さんの薬や容体などの情報交換を行っています。

さらに近年、在宅医療が重要視されており、私も店舗の外に出て在宅医療に取り組んでいます。末期がんのため家族と過ごす時間がほしい、認知症で薬の管理が難しいから助けてほしいなど、様々な理由から在宅医療を選択される方がいます。点滴や衛生材料の供給・管理を行って患者さんやご家族の薬剤管理の負担を減らしたり、医師やケアマネジャーと協力して継続服用をするための工夫をしたりと、多様な仕事が求められています。

このように薬局外での仕事が増えてきており、他職種スタッフとの連携は本当に重要だと感じています。富山大学は医学部と同じキャンパスということもあり、医師、看護師の友人を多く持つことができます。薬剤師の仕事以外に彼らの仕事についても理解することができ、現場での他職種間のスムーズなコミュニケーションにとっても役立ちます。

その他、医師が自分の専門外の薬剤を処方する時にその薬剤の用法・用量を提示したり、避難所の方が持参された薬(またはそれが記載された説明書など)の同効薬・類似薬をごちからで準備した薬の中から探し出し、医師に助言することもありました。

また、持ってこられたお薬が一包化されていた場合には、錠剤に直接刻まれている刻印からどんな薬剤であるかを鑑定すること(薬剤鑑定)もありました。一緒に活動していた医師や看護師から薬に関しての大きな信頼を得られたと思います。最近特にジェネリック(後発)医薬品の流通が多く、ジェネリック医薬品を普段から扱っている薬剤師が医療班にとって重要な存在になってきていることを実感しました。さらには医療スタッフの一員として環境衛生的な面からの支援も行いました。

今回被災地での活動が必要だったものは、やる気・笑顔・日常業務の経験でした。病院での毎日の業務の中では多くの発見があります。これからも新たな知識や技術を習得し、患者さんの生活のサポートをできるような薬剤師を目指して頑張っていきます。

任務終了後、県庁にて。一番左が清水さん。
「ちょっと疲れた顔ですが、充実感でいっぱいでした。」

